

主張して平和に相争ふべきもの母の女といふことである。

一物に過ぎぬのニエアンズ収り付けは、それだけ其がしるものがあるに過ぎぬ。レウケ、それらも其の論者として認められた。然らば、其の非難としてのこの論者達は、これらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

論者として認められ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

「流石な論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。」

「流石な論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。」

「流石な論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。」

で、そのような非難を打倒する妙の斗いは常に少難者たるに出発する。物々に。で、必難者の口

今、斗いはレウケに過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。レウケ、それらも、多量に上りての論者達に過ぎぬ。

すはけて行く。中政聯盟中、大學立法へ新大學
法への關係に於いて、我々の活動に對する版
本的立場をとしてお任している。

中政聯盟は遂に新大學法として制定され
さうとしている。大學立法には次のよう、党内確
のものに對すると察せられる。

すはけり給多大學に於いて(毎日新聞より)
の畢竟事業を終結させらば大學のどうすべき者
應に對して政府は大學管理者に勸告する

②大學管理者は正學化の準備に事とする爲、大
學設置休學三君の機關の意見を聞いて、六
ヶ月以内の期間内休學を一時閉鎖することな
すべきことである

③大學は舊制的に補強状態に於て、たと認られる
場合に、政府は第三言の機關の意見を聞いて
之、最終的の處理の目的に必要、適切古措置を
講ずべきこと。

他、異教的代理一落校の大學再編成

反對派取締局の処分

そして、この大學立法と特別に學生参加の限
界内を越える行政措置に及ぶれよつとしてい
る。此れはよほど一時期然であるが、こ
の通り山のど、正確には、この大學立法を採
取りに先行したものであるといふ。

此れは二の二、意味するもの。これらの大
學立法、行政措置は、現在の全國教育斗争及び
その下位のブルジョア教育、傾向を自ら自向
應にすすめる中、大學に對して、想定されて
いることに於て、資本主義社会に於ける大學
改革を批判的商榷として、生進するべきことと
内容としてある。我々はその中で、人間
性をますます奪われゆくという現在の教育を
根本的に否定して、このことへの全面的な反動の
開始である。

この問題に於ける斗争として、我々の活動
は兵隊問題、カリ問題の問題として語られて
くるもの。カリケムラハの内部に於ける身
同他の進行は、頭下を批判下に行われ、支那
改革のマンショの關係に於いて、そのマ
マに於けるものであり、我々が皆同等すべき
というところ、まさに現在の教育に對しては
かくの如くして批判は行われなければならない。我々
の斗争は現在の教育の根本的、全面的な反動
として進められなければならない。本邦
對面、労働解放、八日労働解放斗争は、その

どの理論的展開としてある。

休養に口ツクアアウト上は、斗争の任務として
斗争は、單に一般的の國家を引くおこす我々の
斗争を促進するということである。今、本邦
共産斗争を引く、若くはアヤケツクルと
介して自ら自らの受けける抑圧に對して自
ら斗争を組織化しようとしている。全々の學生
の斗争の力を在統一、再びより強烈に我々と
黨の關係をつくり出し、このことをするもの
ではない。

また、この事態に於けるものは、さうしたことは
大學当局は自ら學生の自治権を認めると、及
自主的の活動を容解を容れたいといふことも、
一々學生のそれ現在の教育の根本的、全面的に
を向けるや、そのやがては許されぬ。我々の
マ、完全に垂否される。一方的に學生を認め
して加わるということの中に、學生の學生とし
ての全生活過程を最終的に全く自由にする。
即ち我々の學生としての全てを學校當局が全
く自由にしていけることが當然として存在して
いることを知らねばならない。我々の斗争は
そのことを粉砕してゆく斗争として行
われなければならない。

※ ※ ※ ※ ※

以上のような私達をとりまく諸矛盾を、我々
は常に我々自身の闘いとして突破してゆかねば
ならない。アニズ早大斗争と口、このよう
に、單に、學校の管理運営権のみの問題として
のがあるのではなく、常に我々學生の、學生と
しての存在そのものを互向いつけられる斗争の
だといふこと。我々が口、ヨリと確立しな
ればならぬ。

全ての斗争は、共に斗争に起る上から、真
に入面と、あるために、二つした矛盾を以て
ついつつ正物してゆくことではないか。